



すっかり大森山動物園に慣れた様子ユウタ

## レッサーパンダ

担当 4班 堀籠 麻子

大森山動物園には現在3頭のレッサーパンダがいる。

ナナ(メス 平成13年生まれ)とその子、陸(メス 平成16年生まれ)、ユウタ(オス 平成18年生まれ)だ。このうちナナとユウタの二頭がBLで借り受けている個体である。

ナナは平成15年、多摩動物公園から来園して以来、2度の繁殖に成功し、計5頭の子をもうけている。まだまだこれからという時、ペアであった健康が亡くなった。相性がいいペアで、亡くなったときはとても悔やんだという話を聞いている。ペア不在のまま子育てに追われ、そのうちに約3年の月日が経った。子ども達も成長し、独り立ちしてきた平成20年、千葉市動物公園から念願のお嬢さん、ユウタがやってきた。

まずはユウタの環境慣らしから始めたが、持ち前の度胸と好奇心旺盛な性格のため、予想してい

たよりも早く大森山になじんでくれた。その後のナナとの見合いや同居も、拍子抜けするほどスムーズに進んだ。…といっても、同居したての頃は、大きな闘争はないものの、良くもなく悪くもなさそうな曖昧な距離感で、ナナ>ユウタの構図ができあがっていた。ユウタはナナの視線を感じると逃げ腰になり、ナナはユウタが接触しそうになると警戒態勢に入る。そんな関係が半年くらい続いていたが、5、6月に入った頃から急にお互いの存在を認め合ったかのように2頭の距離がぐっと縮まった。寄り添って寝る姿も見られ、身体が触れあっても小競り合いがなくなった。これから寒くて楽しい季節がやってくる。レッサーパンダにとっては恋の季節、繁殖シーズンだ。2頭とも大きな病気や怪我もなく元気に暮らしている。ペアとしての関係もよくなっている今季、新しい命が宿ることを期待したい。



仲よくなってきたユウタ(左)とナナ



食事中のオオバタン

## オオバタン

担当 5班 館岡 幸枝

平成7年3月に埼玉こども動物自然公園から繁殖用として借り受けたオオバタンのペアのうち、オスが死亡したため、現在ふれあいランドでメス1羽だけで飼育している。最近、ガラス越しでの展示を始めた。

オオバタンは近くで動く物や人に対して強い警戒心を持っている様子で、展示を始めた頃は飼育員に対しても激しく威嚇することが度々あった。現在はだいぶ慣れてきており、お客様に見られている時でも餌を食べたりするようになった。

また、もう少し人に慣らし、ストレスを軽減し、手

乗りにするという目的でトレーニングもしている。餌は主にオレンジ・バナナ・キウイ・葉物(キャベツ等)を与えている。その他にもヒマワリの種やクルミを与えているが、オオバタンは特にヒマワリの種が好物のようだ。

普段、飼育員同士がオオバタンの前で話していると、人の話す様子をまねるかのようにして鳴いたり、大声でいきなり鳴いたりと活発だ。これからも大事に育てていきたい。

**動物病院**から

獣医師 安永 千秋

Topic レッサーパンダの

陸くん **改め** 陸ちゃん!?

当園には、陸というレッサーパンダがいる。陸は、BLで来園したナナの子供で、平成16年に生まれた。そんな陸に最近、驚きの事実が発覚した。これまで陸をオスとして飼育してきたが、メス疑惑が出てきたのだ。

当園ではレッサーパンダの性別を、幼獣の時に生殖器を見て判定する。陸の場合もそのようにしてオスと判定していたので、これまで何の疑いもなくオスとして扱ってきたが、担当者によると、「成オスであれば外から生殖器を見て分かるのが、陸にはそれがはっきり確認できない。また、同居していた兄弟のオスから陸がメスであるかのように追いかけるられることがある」とのことだった。

そこで健康チェックなども兼ねて、麻酔をかけ、性別を再確認したところ、メスだということが判明した。

人間であれば起こりえない誤りだが、動物では、種類によっては外見で性別が分かりづらいこともある。そうはいつても動物にとっての性別は重要な情報で、間違わないようにしなければならぬ。私も気をつけて性別判定にあたりたい。

実は女の子だった陸

**最後に...** 大森山動物園から他の動物園や水族館に貸し出している動物も、元気で暮らしていることと思います。これらの動物に会いに全国の動物園に足を伸ばしてみるのはいかがでしょうか？

# 秋田公立美術工芸短期大学との連携

園長 小松 守

私が欧米の動物園をいくつか視察しての共通した印象は、園内が豊富な緑と草花で彩られていたことに加え、展示施設周辺はセンスよくデザインされた案内サインや解説板、思わず触れてみたくなるような展示動物を模したメタルアートが随所に見られたことでした。ショップには動物見学とは別の楽しみを創り出す魅力的なデザイングッズがあふれ、動物園とアートが素敵に融合していました。

大森山動物園の近隣には秋田公立美術工芸短期大学(美短)があり、全国から集まった学生が工芸や産業デザインを学んでいます。

一昨年から、動物園をテーマとした産業デザイン学科の授業が行われていますが、昨年は企業支援が得られたこともあり、提案作品の一つを園内掲示板として実際に設置できました。今年は大森山の魅力アップをテーマにCI(コーポレート・アイデンティティ)の提案授業が行われましたが、すぐにも実用化したいような感性豊かなデザイン等の提案がたくさんあり、感心させられました。

見て楽しむ動物園、生き物を感じる動物園は、人の心を和ませ、豊かにしてくれる場所でもあります。魅力的な展示には、センスの良いデザインが欠かせません。また、生き物を感じる心(ハート)は、心揺さぶる芸術作品と触れることで増幅され、動物園での感動はより大きなものになることでしょう。アート(芸術)とハート(生きている動物)を融合させ、大森山が「動物と芸術の森公園」とも呼べるユニークな動物園になるという発想はどうでしょうか。

美短との関わり、連携は大事にしたいものです。



中間発表の様子

